

出席：小佐野・石川・塩谷・小西・三角・松村・渡部・山本・中江・坂本
オブ参加：隈（全国理事）・長澤（10 月期人事異動に伴う常任理事就任予定者）

1 2006 年第 28 回夏季大学について

既に支部ニュース第 253 号に概要は掲載されているが、以下の項目について各担当から報告を行ったあと議論した。

(1) 収支概算

受講者が 47 名にとどまり、収入の総額は 227,000 円あまりとなったが、前年度 28,000 円あった津村書店によるテキスト売上げを含んでおらず、現時点での支出総額も 240,000 円弱で赤字にはならない見込みである。

(2) アンケート集計結果

受講者によるアンケート集計結果によると、今回の講義は概ね好評で特に 2 日目の講義は動画がふんだんに使われていたこともあって、「わかりやすくなった。」との意見が多かった。今年度実習科目を含めなかったことについては賛否両論があり、また、複数の方からテキストのカラー化や事前配布、プレゼン資料の配布、及びアンケート結果の公表に関する要望があった。

(3) 来年度に向けての反省点

定員を 80 名程度としているのにもかかわらず、2003 年第 25 回の 92 名をピークに年々受講者が減少し今年度は 47 名にとどまったことを受け、受講者を増やす方策について議論した。

その結果、来年と再来年は京都での開催が予定されていることから、交通の便を考慮した会場の選定やテーマ及び講師の選定、土日を開催日するなどの受講者の増加に結びつく方策の決定など早期に実現すべく、次回常任理事会における来年度夏季大学実行委員会の立ち上げに向けて準備を進める。また、要望のあったテキストのカラー化や事前配布、プレゼン資料の配布、及びアンケート結果の公表については著作権や個人情報の保護など考慮しながら可能な方法を模索することとした。

2 人事異動等に伴う役員の交代

気象庁の 10 月期人事異動に伴い、三角常任理事の辞任及び長澤大阪管区气象台気候・調査課長の常任理事就任が了承された。なお、任務分担は松村理事が三角理事の会計担当を引き継ぎ、長澤新理事が松村理事の庶務担当を引き継ぐ。

また、中江幹事の辞任も了承され近日中に新幹事を決めることになった。

3 地区例会の取り組みについて

・第 1 回例会（中国地区）

開催期日：2006 年 11 月 11 日（土）10 時～17 時 30 分

例会会場：岡山大学環境理工学部 104 講義室（岡山市津島中 3 丁目 1-1）

特別講演：講師、西田顕朗氏（筑波大学農林工学系講師）

題目、「衛星リモートセンシングは、陸面過程研究に何を与えてくれるのか」

*現在 26 題の申し込みがあり、原稿を集約中。

- ・第2回例会（四国地区）

開催期日：2006年11月17日（金）13時00分～17時30分

例会会場：香川大学研究交流棟会議室（香川県高松市幸町1-1）

特別講演：講師、森 征洋氏（香川大学教育学部教授）

題目、局地気象について ―地形と風―

*現在17題の申し込みがあり、原稿を集約中。

- ・第3回例会（近畿地区）

開催期日：2007年2月23日（金）

例会会場：神戸大学瀧川記念学術交流会館（神戸市灘区六甲台町）

テーマ：「海洋と気象」（海洋気象学会と共催）

特別講演：未定

4 研究グループ助成のありかたについて

石川理事から関西支部における過去のグループ助成や奨励金受領者に関する資料が示され、研究グループ助成のありかたについて検討した。その結果、今後関西支部として行う研究グループ助成と奨励金については、奨励金に一本化することが再確認され、次回常任理事会までに改正が必要となる要領の見直し作業を進めることとなった。

また、来年度の奨励金受領者の推薦に向けても、引き続き各地区からの推薦を求めることとした。

5 関西支部が在庫として持っている予稿集やテキストの処分について

各3部程度は資料として残すほかは、半額での割引販売などにより在庫整理を進めていくことを確認した。